

グループ相談 報告

グループ相談では講師の方からお聞きしたお話しやアドバイスを分かりやすく掲載します。“こんな時どうしたらいいのかな…” “これでいいのかな…” そんな気持ちを抱いた時に参考にして下さいね。

7/15 (金) 「おむつはずし」

講師：今野 千恵さん (支倉保育所 地域子育て支援センター)

「いよいよ、おむつはずしに挑戦しようかな?」、「只今奮闘中です!」というお母さんたちが参加しました。参加者の体験談は他のお母さんにとっても、参考になり励みになったようです。

〇いつから始める?

おしっこの間隔が1時間半から2時間くらいになってから始めましょう。

〇おまるや補助便座に座ってみよう!

子ども自身が座ってみようと思うことが1番です。大好きなキャラクターを貼るなど工夫をするのも良いです。

〇おしっこが出そうなチャンス!!をねらう。

朝起きた時やお昼寝の後など、偶然におしっこが出た時がチャンスです。



《こんな悩みがありました》

Q. 始めたばかりですが、子どもが“やる気”にならないようです。

A. 子どものやってみようという気持ちを待ちながら、ゆっくり進めてみてはどうでしょう。他の子(年上)の様子をみて覚えることもありますよ。

Q. イヤイヤ期のせいか、声がけしても「しない!」と言ったり、気分にもムラがあり時間がかかります。

A. 無理強いせず、成功した時にたくさん褒めることで気持ちをのせてあげてください。お母さんは、イライラしても自分を責めないでください。思いきってお休みしてもいいかもしれませんね。

~~今野先生からのアドバイス~~

☆うまくいった時(偶然の成功)には、たくさん褒めてあげてください。

褒められたことが嬉しくてやってみようかなという気持ちになっていきます。

☆“おもらし”するのは当たり前」という気持ちで付き合っていけるといいですね。

叱られるとパンツで過ごすことが嫌になってしまいます。

☆お母さんも頑張り過ぎないでね。

子どもたち一人一人おむつはずしの過程が違います。心に余裕をもって、気長にゆっくりゆったり進めてみて下さい。

8/25 (木) 「子どもの事故防止」

講師：阿部 頼子さん (仙台青葉学院短期大学講師)

8組15名が参加。事故はどのような時に起こるのか、またその対処法などをお話いただき、その後質問に1つずつ答えて頂きました。

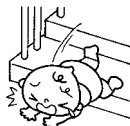
子どもにとって、日常の空間は興味あふれる空間です。まだ安全と危険の区別がつかないため、不慮の事故に繋がります。どこまで、「ダメ! やめて!」と子どもに話せばいいのか難しいところですが、子どもの行動を危ないからと全て制御してしまえば、危険な目にあった時のことを何も学ぶことができません。大ケガに繋がる恐れのある事故が起きないよう、危険な物の管理をしたり、家の中の遊び場を工夫するなどが大切です。

お母さんが、ずっとお子さんを見ているわけにはいけないので、転んだりぶつかったりした時は、ある程度は“仕方ない”と割り切ることも必要です。とのお話がありました。

《お母さんからこんな話もありました》

Q. 寝返りをうつ時に誤って頭を打ってしまったり、何かケガをしまわないか心配で、子どもの傍を離れにくいです。

A. どうしても心配なら、お子さんの両脇にバスタオルを丸めた物を置くことで、ある程度の寝返りは防ぐことができます。ずっとお子さんにつきっきりがしんどくなったら、そういう方法で少し、気持ちを休めるというのも良いかもしれませんね。



☆子どもの年齢によって、注意をしなければいけない事故は異なります。事故を完全に防ぐのは難しいので、起こった時にどのように対応するかが大切です。

☆子どもの手が届くところには、口に入る大きさの危険な物を置かないようにしましょう。(ボタン電池、たばこなど)

トイレトペーパーの芯を通る物は、乳幼児が飲み込めるので注意しましょう。

~~阿部先生からのアドバイス~~

我が家では、子どもが自由に開けたり触ったりしても良い物(じゃがいも、おもちゃなど)を置く棚を作りました。全てを禁止するのではなく、失敗から学べる環境づくりも大切です。